

## 令和元年度 米子市の環境に関する市民アンケート調査結果における年齢層別の傾向等

<p>&lt;年代別回答数&gt;</p> <p>・高齢層(60-69歳、70歳～)から多くの回答が得られた(590人)ものの、若年層(20-29歳、30-39歳)における回答数(179人)は高齢層の約1/3となっている。</p>
<p>&lt;質問1 住みやすさについて&gt;</p> <p>・「住みやすい」、「やや住みやすい」と回答した割合(86%)は、全体の約8割を占めており、また、全ての年齢層において約8割が回答している。</p> <p>・「住みやすい」と回答した割合において、70歳以上(61.7%)は、20-29歳(32.3%)と比べ約2倍となっている。</p>
<p>&lt;質問2 身近な環境について(「満足」及び「やや満足」の合計)&gt;</p> <p>・どの項目においても、年齢層ごとの回答割合に大きな差異は見られず、年齢による違いは見受けられない。</p>
<p>&lt;質問3 将来の世代に残したい環境&gt;</p> <p>・区分「ごみ出し・ポイ捨て等のマナー」における、若年層(20-29歳、30-39歳)(約16%)と高齢層(60-69歳、70歳～)(約32%)の回答割合について、2倍の差が生じており高齢層の方が高い結果となっている。</p>
<p>&lt;質問4 解決(改善)しておきたい環境&gt;</p> <p>・20-29歳の年齢層における「まちなみの美しさ」の回答割合(10.7%)は他の年齢層の回答割合の約1/2、「自然景観の美しさ」の回答割合(4%)は他の年齢層と比べ回答割合が1/4と低い結果となっている。</p>
<p>&lt;質問5 環境にやさしい行動&gt;</p> <p>・「いつもやっている」と回答した割合について、「自動車のエコドライブ」では年齢層ごとの差異は生じていないが、他の項目については、高齢層になるほど回答割合が高くなる傾向がある。特に、「節水につとめている」、「生ごみの再利用、少量化に努めている」、「再生紙等エコ製品の購入を心掛けている」の項目では、20-29歳と70歳以上とでは約3倍の差が生じている。</p> <p>・「ごみは分別して出している」の問に対し、「いつもやっている」の回答割合が20-29歳の年齢層は約7割だったが、他の年齢層では9割を超えている。</p>
<p>&lt;質問6 環境保全への参加意欲&gt;</p> <p>・「健康上の理由等で参加したいとは思わない」と回答したのは、高齢層(60-69歳、70歳～)で約4割に達し、年齢が上がるにつれ回答割合が高い傾向にある。</p> <p>・「参加したいとは思わない」と回答したのは、若年層(20-29歳、30-39歳)の回答割合が約12%と高齢層(60-69歳、70歳～)の回答割合の約4%と比べ3倍程度高い結果となっている。</p>
<p>&lt;質問7 地球温暖化問題&gt;</p> <p>・年齢が上がるほど、「世界的な問題で最優先されるべき一つである」と回答する割合が高くなっており、20-29歳と70歳以上では、20ポイントの差がある。逆に、「重要だとは思うが他にもっと大切な問題がある」については、20-29歳が70歳以上と比べ20ポイント高い結果となっている。</p>

<p>&lt;質問8 地球温暖化防止のための行動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在の生活を変えない範囲で対策を行うべき」及び「現在の生活を多少変えてでも対策を行うべき」と回答した割合が約8割であり、どの年齢層においても3割～4割が回答し、年齢層ごとの差異はない。</li> </ul>
<p>&lt;質問9 地球温暖化防止のための費用負担&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「温暖化対策は必要だと思うが家計の負担増は避けてもらいたい」との回答割合は20～29歳で最も多く7割以上が回答しており、「温暖化対策のためには家計の負担増はやむをえない」との回答割合は同年齢区分で約1割と、若年者ほど家計の負担増を伴う温暖化防止を望まない傾向がある。</li> </ul>
<p>&lt;質問10 地球温暖化対策の取組状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「LED照明」については、全ての年齢層において「導入済み」と回答した割合が5割を超えており、導入が進んでいることが分かる。</li> <li>・「住宅の断熱化(気密性の高いもの)」については、30～39歳、40～49歳及び50～59歳の年齢層では約3割が「導入済み」と回答しているものの、29歳以下、60～69歳及び70歳以上の年齢層における回答割合は約1割となっている。</li> <li>・全ての項目における「導入予定はないが、関心はある」について、29歳以下の回答割合が他の年齢層に比べて低い結果となっている。</li> </ul>
<p>&lt;質問11 事業者に期待すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大気汚染や水質汚濁、騒音などの公害対策強化」、「廃棄物の適正な処理」については、どの年齢層においても3割以上(約3割～約5割)が回答を示し、年齢に関係なく関心があることが分かる。</li> <li>・年齢が高くなるほど回答割合が高い結果となったものに「省エネタイプの製品、有害物質を含まない製品など地球環境に配慮した製品の開発」、「リサイクル等の省資源化、節約等による省エネルギーの徹底」がある。</li> <li>・年齢が低くなるほど回答割合が高い結果となったものに「太陽光や風力など再生可能エネルギーの開発や利用」、「商品の積極的な修理の受入れや回収」、「エコカーの積極的な導入」がある。</li> </ul>
<p>&lt;質問12 行政に期待すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公害対策に関する取り組み」はどの年齢層においても約4割が回答を示し、年齢に関係なく関心があることが分かる。</li> <li>・年齢が高くなるほど回答割合が高い結果となったものに「ダイオキシンなどの有害物質に関する取り組み」がある。</li> <li>・年齢が低くなるほど回答割合が高い結果となったものに「工場、農業等の悪臭対策の促進」、「エコカーの普及に関する取り組み」</li> </ul>
<p>&lt;質問13 環境意識について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の年齢層で回答割合が低い結果となったものに「PM2.5」(70歳～:63%)、「電力自由化」(29歳以下)、「パリ協定」(29歳以下:21.9%)。</li> <li>・全体の回答割合が10%を下回っているものとして「SDGs(持続可能な開発目標)」、「COOL CHOICE(クールチョイス)」及び「気候変動適応法」があるが、どの年齢層においても回答割合が低い傾向がある。</li> </ul>